

社会福祉法人アイアイハウス 2021年度事業報告書

総 論

2021 年度も昨年度に引き続き、出口の見えない新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、社会保障分野・障害者福祉に関わる分野でも感染症罹患の不安と戦いながら仲間の安全と安心を勝ち取るために奮闘した1年となりました。とりわけ 2022 年 1 月末から、全国的な第 6 波のなか、アイアイハウスでも職員・仲間の発症者があり、生活介護を始めグループホームも閉所する事態となりました。また、2020 年度の 1,400 万円を超える赤字決算とここ数年での累積赤字を受けて、法人としても将来に向けての本格的な経営改善計画をスタートさせた 1 年となりました。初めて常勤職員賞与の一部削減を実施しました。また、報酬増を目指して新たに法人本部事務所をアイアイハウスの従たる事業所「舟岡アイアイハウス」として 2022 年 1 月に開設し、2 カ所の生活介護事業所での新たな入所者を迎え、登録者数を年度初めの 38 名から 41 名（2022 年 4 月 1 日付け）まで増員しました。また、仲間の皆さんの暮らしの支援へのニーズが高まる中、増収にもつながる居宅介護事業の拡充を目指し、準備を進めてきました。この間、京都市財政の悪化により、市の単費補助制度である、重度障害者に対する補助金制度が年々縮小されていることもアイアイハウスに取っては大きなマイナス要素となっています。そのような中でアイアイホームの機能を縮小したことは、法人としても避けられない苦渋の選択ではありましたが、居宅介護事業の拡充と併せて、できる限りの方策を模索した 1 年となりました。結果として単年度の収支は、マイナスとはなりましたが、一昨年に比べて大きく改善されたことも事実です。引き続き国や京都市に対しての制度改善等の要求運動を強めながらも、今後も安定した経営に向けての取り組みを続ける必要があります。

2021年度重点課題(再掲)

① 仲間たちの日中活動のさらなる充実をめざします

< 現況 >

紫竹アイアイハウスが開設して丸4年が経ちました。アイアイハウス全体で仲間の登録は38名となっています。またこの間は、仲間たちの生活リズムの確立や見通しも視野に入れ、通所日数の増をめざして、祝日開所や土曜開所にも取り組んで来ています。アイアイハウスの仲間たちの障害種別や障害の程度、年齢層も幅広くなる中で、とりわけ家族の家庭での介護度が低下していく中で今後ますます仲間たちひとり一人の置かれた実態や願いに基づいて各事業の果たす役割をより明確にする事が求められます。

< 重点課題 >

仲間たちの実態や願いに合わせて、生活介護事業所では引き続きアイアイハウスでの祝日の開所と紫竹アイアイハウスでの土曜開所を継続して取り組みます。また、仲間たちの働くことをはじめとした日中活動の充実はもとより、働くこと以外の諸活動（機能訓練やストレッチなど）や行事（創作活動やリクレーション、自治会活動など）もいっそう充実させていきます。しかしながら新型コロナウイルスの影響で今年度も外出取り組みや旅行などにはまだまだ大きな制約があると考えられます。国や京都市からの指導や援助も受けながらそれらの取り組みも検討をしていきたいと考えます。あわせて、仲間の高齢化や障害の重度化に伴い、往診等も含めた医療的ケアや健康の維持、PTの指導や身体づくりなどにも積極的に取り組んでいきます。

② アイアイホーム等のくらしの場の充実と家庭での暮らしの支援を進めます

＜現況＞

アイアイホームでは、祝日開所に伴うホームの祝日宿泊利用と週末である金曜日までの宿泊も実施して来ています。しかしながら2020年度は職員体制の不十分さもあり、より充実した取り組みを進めることが困難でした。また、家族の高齢化等による家庭での介護力の低下に伴い、土曜や日曜、長期休暇中のホーム利用についても検討や実施を始めました。残念ながらご両親ともが家庭で仲間の介護ができない事例もあり、残念ながら入所施設に移らざるを得ないケースが昨年度もありました。

＜重点課題＞

仲間の加齢に伴い必要になる医療的ケアに係る支援体制の確保や、土日や長期休暇中のホーム利用も視野に入れた支援の体制作りなどにも取り組みたいと考えます。より一層アイアイホームでの暮らしを質と量の双方ともに充実させることが望まれています。あわせて、家族の高齢化や介護力の低下も進むなか、ホーム内にあるショートステイアイアイや紫竹アイアイハウスのショートステイ紫竹アイアイもより活用の頻度を増やし、充実して利用できるように努めます。また、アイアイハウスに通う仲間たちの将来の暮らしを見据えて、職員と家族がともに考えていく場を作ります。

③ 仲間の生活や余暇を支える手だてを充実させます

＜現況＞

指定特定相談事業所を中心として、仲間たちの日中や夜間の支援だけでなく、ライフサイクルに沿った仲間一人一人の暮らし全体を考えることや、余暇の充実等をめざしてそれぞれの課題の解決や将来に向けて法人として取り組みを進めてきました。

＜重点課題＞

そのために、ヘルパーステーションアイアイの質・量ともに拡充をはかり、仲間たちのニーズに応じた居宅介護の利用を促進します。とりわけ希望の多い移動支援の事業の開始を進めます。障害者地域生活支援センターや保健センター等の他機関、他の事業所とも連携し、仲間たちの余暇を豊かに支える取り組みとともに生活の課題の改善に向けた取り組みにも力を注ぎます。

④ 「法人理念」と「法人の基本方針(めざすこと)」に基づく実践と運営を進めます

社会福祉法人アイアイハウスの「法人理念」と「基本方針(めざすこと)」を通じて、日々の取り組みの中で職員をはじめとしたアイアイハウス関係者の団結と意思統一をより進めます。そのために「法人理念」と「基本方針(めざすこと)」を実現できる実践力の向上と経営の確立と安定を図るために、就業規則をはじめとした諸規定の更なる整備と充実に着手します。

⑤ 法人と職員集団の役割を明確化するとともに、法人の組織機構をしっかりと確立します

2021年度重点課題が実現できるよう、地域も異なり事業種別も異なる法人内の各事業が有機的に連携し機能するよう、強固な組織機構体制を確立します。そのために2021年度も引き続き事業所間の人事異動・人事交流や新たな管理職の登用を行います。その中で、個々の職員が自分の所属する事業所だけでなく、幅広い視野を持ち法人全体を考えられるよう研修や交流に努めます。また職員の職責や役割分担、業務分掌を明確にするとともに、職員会議の充実と研修の充実を図ります。キャリアパス制度を充実し、現場の責任者である主任を個々の事業所にも配置する中で、個々の責任所在を明確にし、職員のやりがいとともに働きがいの充実を目指します。また、法人とアイアイハウス家族の会やアイアイハウスを支える会との連携をより一層強化します。

- ⑥ 仲間の置かれた実態や要求に基づく制度改善に向けた運動に積極的に取り組むとともに、地域での理解と支援を広げます

国において、財政抑制に発して権利としての社会保障制度が後退していく中、仲間たちの願いに応えるべく、制度改善の運動に積極的に取り組みます。また、そのためにも各障害者団体や障害者施設、他種の社会福祉事業や社会福祉協議会等とも連携を深め、人的な交流も含めて積極的に連帯します。同時に、地域の住民や地域の各種民間団体とも連携を深め、様々な機会を通じてアイアイハウスに対する理解と共感を広げる取り組みを進めます。

- ⑦ 仲間たちの願いに基づく中長期計画を点検し実践します

社会福祉法人アイアイハウスとして、新たに作成した中期5カ年計画(Vision 2020 to 2024)に基づいて事業を進めるとともに、年度ごとの振り返りと内容の点検・再検討を行います。そのためにも法人役員だけでなく、仲間家族や職員、幅広い関係者が参画しての検証委員会を設け計画の推進に努めます。

- ⑧ 新型コロナウイルス感染症に対する取り組みを充実します(新規)

新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、仲間たちが安心してアイアイハウスに通えるように様々な手立てを行います。新型コロナウイルスに感染しない、感染しても事業所内で広げないことを目指して、管理職会議を中心として、仲間や職員に対する衛生管理を引き続き徹底するとともに健康管理に努めます。法人として事業継続計画であるBCPの作成に着手します。また、仲間や職員の発熱時に対応できるマニュアルの作成と実施の徹底をはかるとともに、緊急時に対応できるようにPCR検査キットの導入と活用をすすめます。その他、国や京都市からの情報をしっかりと受け止めるとともに、それらの情報を仲間家族や職員にも共有していきます。

2021年度 アイアイハウス(上京、舟岡) 事業報告

文責:丸山 徹

アイアイハウスは2022年1月10日から分室(従たる事業所)として「舟岡アイアイハウス」を開設しました。

仲間状況

- ① 定員:20名
② 現員:21名(上京アイアイハウス15名 舟岡アイアイハウス6名)
③ 一日利用者数概算:17名～21名
 ○上京アイアイハウス 12名～15名
 ○舟岡アイアイハウス 5名～6名
④ 年齢構成:23歳～62歳
 ○上京アイアイハウス 23歳～49歳
 ○舟岡アイアイハウス 26歳～62歳
⑤ 障害支援区分

	区分 4	区分 5	区分 6
上京アイアイハウス	1名	2名	12名
舟岡アイアイハウス	3名	2名	1名

⑥入退所経過

- ・2021年12月 1名退所
- ・2022年1月 3名紫竹から異動(上京:2名 舟岡:1名)
- ・2022年2月 1名入所

職員状況

- ① 常勤職員:9名(上京7名 舟岡2名)
- ② 非常勤職員:11名(上京9名 舟岡2名)
※うち看護師1名 送迎運転専属1名

施設

- ①設備設置等
- ・上京アイアイハウス:なし
- ・舟岡アイアイハウス:点字ブロック トイレ手すり 防災設備 空気清浄機
オーディオ 洗濯機 など開設に必要な物

保健

- ① 看護師勤務
- ・月1回看護師が勤務し、仲間の「体重」「血圧」「脈拍」の測定を実施しました。月々の各項目の推移データの作成も看護師が行いました。
- ② 歯科健診
- ・2022年2月に仲間の歯科健診を実施しました。毎年一回京都府歯科医師会から派遣された歯科医師と歯科衛生士により実施し、健診結果は各ご家庭に報告しています。また健診後は歯科衛生士による「衛生講話」も実施しました。虫歯のメカニズム、歯磨きの方法やポイント、市販の歯磨き粉や液体歯磨きのことなど学ぶことができました。
- ③ 新型コロナウイルス対策
- ・朝と昼の2回、仲間・職員の検温、換気を実施しています。
- ・手洗い・消毒、マスクの着用を実施しています。マスクの着用に関しては、仲間は半数程度ができる状態でした。常時着用できる仲間は数名程度ですが、外出の際などポイントを絞ればある程度できる仲間もおられました。職員はサージカルマスクの着用を徹底しています。フェイスシールドはあるが仲間が気になり触ることによる負傷の危険もあり使用できていません。
- ・昼食は仲間と職員は時間差を付けて摂る、同じ向きで摂るなどしました。
- ・飛沫防止用アクリル板については2階では使用しました。1階では他の危険が大きい(倒してケガ、留め具でケガなど)ため使用できていませんが、一部では枠が段ボールのPET 仕切り板の使用を実施しました。
- ・職員に向けた新型コロナウイルスの定期的な PCR 検査、抗原検査は実施していません。
- ④京都市からの新型コロナウイルス用物資の供給

マスク	プラスチック手袋	消毒液
-----	----------	-----

防災

- ①避難訓練
- ・月一回仲間・職員合同で避難訓練を実施しました。毎回テーマや内容を変えています。2021年度は「火災」「地震」「大雨」「原発事故」を主なテーマとし、それらを組み合わせたものや救急活動を組み合わせて実施しました。またテーマや内容の学習も簡潔ながら実施しました。例えば京都市の大雨時のハザードマップ、地震の断層の確認、負傷した者の救助法などです。

②サイレン付きメガホン

- ・2022年3月にサイレン付きメガホンを購入。このメガホンのサイレンを避難訓練の開始合図として使用しています。

③防火管理者・避難計画書

- ・防火管理者や避難計画書を現状に合わせるため変更手続き終了。

④災害救助用物資

- ・2021年3月に京都市から災害救助用物資が配給されましたが未使用のまま保管中。

仲間の活動

①上京アイアイハウス

1階グループの取り組み(月曜日～金曜日の午前)

- ・1階グループは『さんSUNグループ』と『ガンバルゾ☆グループ』に分かれて活動しました。

『さんSUNグループ』は「言葉と音楽」、「リサイクル活動」、「生活活動」、「創作活動」、「散歩」、「くつろぎの時間」を中心に取り組みました。「くつろぎの時間」は2年目ということもあり定着しました。ゆっくり過ごせるようになりました。

『ガンバルゾ☆グループ』は「下請けの仕事」を中心に取り組みました。

2022年1月からは仲間の再編と共に舟岡(分室)に下請けの仕事は移転しました。

また再編の際に1階仲間のグループ分けは廃止しました。フロア人数が再編により減少したことで落ち着く仲間が増加しました。

2階グループの取り組み(月曜日～木曜日)

- ・「お米の仕事」、「訓練」、「フェルト製品製作」、「創作活動」、「言葉と音楽」を中心に取り組みました。昨年まで実施していました「スヌーズレン」は仲間の実態もあり廃止しました。代わりに毎週木曜日の午前に「運動の時間」を設けました。ボール回し、手遊びなど体を動かす取り組みを試行錯誤しながら取り組んでいます。

仲間の会(金曜日)

- ・毎週金曜日に1階グループは午後のみ、2階グループは午前と午後にレクレーションを行う仲間の会を実施しています。

2021年度も外出は減少しました。

1階グループでは定番のボウリングやサッカーの他に特に新しいゲームの追加はありませんでした。これまでと同様に距離などで得点を変えて誰にでもゲームで勝てる要素は維持しています。

2階グループは新たなゲームで「カンカラ綱引き」を追加しました。1.5メートル程のひもの付いた段ボール箱に空き缶を乗せて落とさないように引っ張るゲームです。みんなゲームを理解し慎重に引くことができるようになりました。とても楽しめるゲームです。

②舟岡アイアイハウス(2022年1月～)

舟岡アイアイハウスでは「下請けの仕事」、「散歩」、「フェルト」、「言葉と音楽」を中心に取り組んでいます。メンバーは上京仲間、紫竹仲間、新規仲間構成されていますのでこれまで慣れている取り組みを中心にプログラムを組んでいます。

上京アイアイハウスと同じく毎週金曜日はレクレーションの「仲間の会」を実施しています。

③外出企画

- ・ほとんど実施できませんでしたが、春の「お花見」、秋の「紅葉狩り」は実施しました。

④行事

- ・「法人の集い」「フナオカスタンダード」「日帰り旅行」などの行事は実施できていません。

課題・まとめ

① 新型コロナウイルス関連(保健の項記載以外)

- ・2021年度も新型コロナウイルスの蔓延により仲間、職員の活動の制限が多く、思うような活動ができていません。特に2022年1月からは仲間、職員にも陽性者が数名出る事態になり2回事業所を閉鎖することもありました。20日間程自宅待機になる仲間、職員も出ることとなりました。

濃厚接触者認定では仲間の実態から国や市の基準をそのまま適用すべきでないということもあり判断が難しい場合があります。また基準の変更によりアイアイハウスでも今後どのように適用していくかが課題です。

② 仲間関連(主に様子)

- ・2021年12月に仲間1名が退所され、2022年2月には仲間1名が舟岡アイアイハウスに通所され始めました。

- ・アイアイハウス1階グループは個別対応の必要な仲間が多く、集団で過ごすことが苦手な仲間が多くなっています。一部の仲間は入所後5年経過したこともありかなり慣れて落ち着いて過ごせるようになっています。しかしながら他害がひどく出るようになった仲間もいます。昨年からの家庭での過ごし方、ヘルパー利用増も含めて喫緊の課題となっていました。目処が立たないので2022年1月から日曜日も生活介護で日中支援をしています。まだまだ家族の支援としては不十分なのでさらなる支援が必要です。日曜日支援時は比較的穏やかに過ごせることが多くなっています。

- ・アイアイハウス2階の仲間は、アイアイホームとほぼ同じメンバーとなっており、暮らしの場と日中活動の場での仲間の変化が少ない状況で、ずっと一緒にいるということからのストレス問題が以前から指摘されていましたが、舟岡アイアイハウスが開設され、2名がそちらへ異動となったことで仲間同士のストレスは軽減されています。

- ・舟岡アイアイハウスでは当初は新規仲間が不在だったこともあり楽しく仲間同士で会話したりして過ごせていましたが、新規仲間との関係性で不和が生じている状況になっています。新規仲間入所後数カ月が経ち仲間、職員も距離感を掴んできている状況ではありますが、新規仲間は他事業所(上京アイアイハウス)へ異動したいと直接職員に訴えているので今後どうするかが課題となっています。

③ 事業所関連

- ・法人の理念や基本方針とは別にアイアイハウス(上京)では「ONE 上京」というテーマを掲げています。これは仲間・職員が空間的に1階、2階が完全に分断されていた状態から脱却し、一体としてのアイアイハウス(上京)を目指す事を意味するものです。

昨年度は1階と2階の職員の行き来を実施し(人手不足もあり)、また分室として舟岡アイアイハウスが開設されたことにより、仲間、職員は必然的に分断されましたが、ヘルプ体制に入ったり今後の職員再編、情報の共有を通して一体化を維持していく方針です。

また情報の共有の点では、仲間、職員が一部共通している上京アイアイハウス、舟岡アイアイハウス、アイアイホームの会議録を回覧します。

- ・2021年度も月一回アイアイハウス(上京)の広報誌「かみぎょうしんぶん」を発行しました。開始してから3年経過しました。仲間の日中活動の様子を伝えることを第一の目的としていますが、職員のフーズスキルや写真撮影のスキルが上達しました。異動してきた職員も含めてすべての上京アイアイハウスと舟岡アイアイハウスの職員で月ごとに作成担当を変えて今後も継続します。法人のホームページにも掲載されています。

- ・職員の育成については、2021年度はほぼ法人内部研修のみでした。「考える・話す」をテーマにしていたこともあり全員に数分間の発言時間を設定して実施しました。参加職員はしっか

り事前に学習して研修に臨んでいました。研修テーマは「福祉職の賃金はなぜ低いのか」、「内なる優生思想」、「総力戦体制とは」、「心肺蘇生法」などでいした。課題は研修テーマにもよりますが、非常勤職員の参加者が3分の一程度で固定メンバーのみになっていたことが挙げられます。

職員の育成は急務と思われるので内部研修、外部研修問わず2022年度は実施していきます。また常勤職員は外部研修後の伝達講習を年1回は行う予定です。引き続き常勤職員だけでなく非常勤職員も参加できる形で実施します。

2021年度 紫竹アイアイハウス 事業報告(案)

文責:栗津 浩一

仲間状況

- ② 定員:20名
- ③ 現員:20名(男11名 女9名) 20⇒17⇒20(2022.4.1付け)
- ④ 一日利用者数概算:14名～17名
- ⑤ 年齢構成:20歳台～50歳台
- ⑤障害支援区分

区分4	区分5	区分6
2名	5名	13名

- ⑥ 入退所経過
- ・2021年1月 3名退所(舟岡アイアイハウスへ異動)
- ・2022年2月 1名入所
- ・2022年4月 2名入所予定

職員状況

- ③ 常勤職員:11名(男6名 女5名) ※うち看護師1名
- ④ 非常勤職員:6名(男1名 女5名)

施設

- ① 設置等経過
- 特になし

保健

- ① 看護師勤務
- ・常勤看護師が勤務し、仲間の日常の健康観察をおこなっています。擦り傷等の軽微な怪我の対応を行いました。また、発作の薬等の保管に努め、家族と連携して適切な使用を行いました。また、法人内の他事業所からの仲間の健康相談も行いました。新型コロナウイルス対策には指導的な役割を果たすことができました。
- ② 歯科健診
- ・仲間の歯科健診は実施出来ていません。今後の課題です。
- ③ 新型コロナウイルス対策
- ・出勤時の職員の検温を行い記録しています。

- ・職員は手洗い・消毒、マスクの着用を実施しています。マスクの着用に関しては、職員は出勤時に事業所常備の不織布マスクを使用し、1日の業務終了後に廃棄しています。仲間についてもマスクの着用が可能な仲間には常時のマスクを着用してもらうようにつとめました。外出の際などポイントを絞ればある程度マスクのできる仲間もおられました。
- ・昼食時は仲間と職員は時間差を付けて取る、同じ向きで摂るなど実施しました。
- ・飛沫防止用アクリル板についてもできるだけ使用しています。
- ・通常時の定期的な PCR 検査は実施できていません。職員に関しては次年度実施の予定です。
- ・施設閉所時には嘱託医に依頼しPCR検査を迅速に実施することができました。

④ 京都市からの新型コロナウイルス用物資の供給

マスク	プラスチック手袋	消毒液
-----	----------	-----

防災

① 避難訓練

- ・月一回仲間・職員合同で避難訓練を実施しています。毎回テーマや内容を変えています。2020年度は「火災」「地震」「大雨」などを想定し、それらを組み合わせたものも実施しました。消防署の立ち合いは出来ておらず、次年度の課題でもあります。

② 防火管理者・避難計画書

- ・11月4日に北消防署の査察があり、防火管理計画の改定と一部防災カーテンの不備がありました。11月15日には是正計画書を提出し改善を終えました。

安全運転管理

- ・8月16日に安全運転管理者の施設長への交代を行いました。
- ・2月14日に安全運転管理者の講習を受講しました。
- ・2022年4月からの道路交通法の改正に向け、3月よりもとより実施していたアルコール検知器によるチェックの記録と保存を実施しました。

給食⇒弁当

国において食事提供加算の見直しが行われていること、食品衛生法の改正で新たにより厳しい衛生管理が導入されること、給食調理員の人手不足等があり、12月より給食調理を中止して配食弁当に切り替えました。事前に仲間・家族に報告提案するとともに、職員による複数業者の試食を経て実施しました。日替わりとヘルシーとの選択ができ、仲間のみなさんにも公表です。

仲間活動

① 仲間の活動

- ・今年も年度初めから新型コロナウイルス感染症の関係で、外出企画や行事が大きく制限された1年となりました。
- ・自主製品として、フェルト製品や紙製品(封筒・メッセージカード)の作製に取り組みました。毎日の積み重ねで仲間も作業に慣れ、季節ごとの商品の企画も楽しんでいます。販売の機会は全くなくなりましたが、きょうされん斡旋の物品販売に自主製品のカタログを載せることで一定の販売がありました。きょうされん物品の販売では一昨年のように配達に出かけることは出来ませんでしたが、収益で仲間のボーナスを支給することができました。
- ・染め物の製品作りも4年目に入り、作業工程にも慣れてきました。普段はグループ別に取り組むことが多い中、染め物作業はみんなで賑やかに取り組んでいます。大型作品の屏風の作

成に取り組み、あい藍アートワーク(アイアイハウスの支援団体)の展示販売会にも出展することが出来ました。仲間も見学に参加しました。

- 言葉と音楽、創作活動にも引き続き取り組みました。季節感を大切にして、鯉のぼりや七夕、母の日の企画やクリスマスなど色々な企画をたてて楽しみました。生活活動では、フロア清掃や整理整頓を中心に、自分たちの生活環境と整える活動をしました。夏場にはみんなで送迎車両の洗車をするなど、新しいアイディアを取り入れ、仲間の得意な内容を中心に頑張りました。
 - 創作活動では12月に北区役所で開催された展示会に出展しました。
 - 仲間の会では、前半は外出企画が出来ずほとんど室内企画のとりくみでした。「ゲーム大会」「フォークダンス・ディスコ」「宝探しゲーム」「段ボールくずし」「卓球バレー」「魚釣りゲーム」「縁日を楽しもう」「盆踊り大会」「ボーリングゲーム」「PKゲーム」「エレキギター大会」「牛乳パック倒し」「初詣」「節分の豆まき」「DVD鑑賞」「ひなまつりパーティー」「スヌーズレン」「アイアイ喫茶」「鴨川でお花見」など、毎月ごとに仲間の会で仲間たちの意見を募って取り組みを決めました。
- 後半には宝ヶ池や上賀茂神社に車で出かけ、散策を楽しみました。
- 「クリスマス会」では(株)イオンクレジットサービス様から仲間へのクリスマスプレゼントのお菓子の寄付をいただきみんなで楽しく過ごせました。
 - 土曜開所や祝日開所では、一昨年度は外部団体に公演依頼をして、よさこい踊り、音楽公演、ジャグリングショーなどを企画しました。が、今年度も昨年同様に仲間の会と同じような室内企画が多くなりました。

② 行事

- 「法人の集い」「日帰り旅行」など行事は実施できていません。
- 「フナオカスタンダード」はオンラインでの開催となり、仲間たちも行事参加ができ、他の事業所との交流ができました。

③ その他

- 2021年度も月一回紫竹アイアイハウスの広報誌「しちくだより」を発行しました。仲間の日中活動の様子を伝えることを第一の目的として、誕生日の紹介なども掲載しました。法人のホームページにも掲載されています。
- 翌年度の仲間の増員に向けて京都新聞社会福祉事業団に送迎車両の申請をし、トヨタハイエースワゴンの贈呈を受け、仲間みんなで贈呈式を行いました。

2021年度 ショートステイ紫竹アイアイ 事業報告(案)

- 人事異動もあり4月～6月まではショートステイの稼働をすることが出来ませんでした。
- 7月より再開して6名の対象仲間が月に1回のペースを基本に利用しました。
- 7ヶ月で延べ32名の仲間が利用しました。
- 職員不足の解消と併せてショートステイ事業が継続できるように、新年度に向けての抜本的な改革に取り組む必要があります。

2021年度 アイアイホーム・ショートステイアイアイ 事業報告

文責:福原 友佳

仲間状況

- ① 定員:9名
- ⑦ 現員:9名(男5名 女4名)
- ⑧ 年齢構成:20歳～50歳

④ 障害支援区分

区分4	区分5	区分6
1名	1名	7名

⑤ 入退居経過

・2021年7月 1名入居

職員状況

⑤ 常勤職員:4名(男2名 女2名) ※9月まで 常勤職員:7名(男3名 女3名)

⑥ 非常勤職員:11名(男2名 女9名) ※内2名は調理専属

施設

⑤ 設置・修繕等経過

2022年2月 非常誘導灯 電池交換

アルソック設備 解約 ※2022年3月警備装置撤去工事あり

保健

① 新型コロナウイルス対策

- ・出勤時の職員の検温を行い手洗い・消毒、マスクの着用を行っています。
- ・帰所時・起床時の仲間の検温、可能な限り仲間の手洗い・消毒を実施しています。
- ・仲間が使用するテーブルに飛沫防止用アクリル板を設置しました。
- ・通常時の定期的なPCR検査は実施できていません。

⑥ 京都市からの新型コロナウイルス用物資の供給

マスク	プラスチック手袋	消毒液
-----	----------	-----

防災

② 避難訓練

- ・夕方の比較的職員体制に余裕がある時間帯に実施しました。
- ・入浴中の仲間の避難、夜間時の職員体制が手薄な時間帯の避難を想定した訓練の実施が課題です。
- ・消防署の立ち会いは出来ておらず、次年度の課題となっています。

全体総括

法人の経営状況の改善が求められる中、法人全体の収入増のため、日中事業所に新たな仲間の受け入れを行うこととなりました。アイアイホームの泊数を減らすことで、職員2名を各日中事業所へ異動し新たな仲間の受け入れ体制に備えました。

10月から、アイアイホームの宿泊数を月曜日から木曜日までの4泊に減らすこととなり、仲間やご家族には大きく影響し「くらしの場」としての課題が残りました。また、泊数が減ることになった金曜日泊について、ご家庭と相談し必要な仲間は『重度訪問介護』で外部事業所のヘルパーをご利用されることとなりました。

●アイアイホームの食事について

これまでも夕食メニューは食材配達業者である“ヨシケイ”に依頼していましたが、安価なメニューであり、ボリュームにかけることや外国産の冷凍野菜が多いことなどから、“ヨシケイ”の家庭用メニュー『すまいるごはん』に変更しました。ご家族からご意見をいただきながら12月からメニューを切り替えることとなりました。

また、朝食も同じ“ヨシケイ”を利用していましたが、12月からは京都生協の個配を利用し、朝食メニューの食材をアイアイホームで準備し、食事作りの方に調理していただくこととなりました。

以前よりも生鮮物の野菜が充実し、食事内容もバラエティーが豊富でボリュームアップしました。様々なお肉やお魚料理を提供できるようになったことで、仲間の方もおいしく召上がっております。

(下記食費改訂)

食費改定		
	(前)	(後)
夕食:	450 円	⇒ 700 円
朝食:	150 円	⇒ 200 円

●「新型コロナウイルス感染症」について

2021年度の感染状況や対応について以下に報告いたします。

7月 アルバイト者1名が罹患。アイアイハウスとしても初めての支援者の感染であった。当該アルバイト職員は発症が勤務後2日以上経過していたことから、仲間やほとんどの職員(当該アルバイト職員と同居の家族職員以外)は濃厚接触者に該当しなかったため事業継続した。

1月 アルバイト者1名が罹患。感染確認前日に勤務していたことから一部仲間と職員が濃厚接触者となった。念のためアイアイホーム全仲間・職員を対象にPCR検査を実施したが感染者は確認されなかった。/20~1/28までアイアイホームを一部閉鎖し、濃厚接触者となった仲間と職員は自宅待機となった。1/31から完全再開したが、長期間の自宅待機で体調不良となった仲間や家庭内で感染し、更に待機期間が延長となった仲間もおられた。

2月 仲間1名 罹患。(※別途報告書あり)

感染状況としては、アイアイホームの仲間2名、職員1名。2/2~2/14までアイアイホームを完全に閉鎖。感染者である仲間は家族介護が困難なため帰宅することができず、アイアイホームで体制をとり支援を継続した。これまで金土日を利用していただいていた外部のヘルパー事業所も支援体制に入ってもらえた。2/21からはアイアイホーム事業を完全再開。感染した職員や仲間、罹患した仲間の支援に入った職員が一定期間の自宅待機を行った。

3月 上京アイアイハウスの仲間1名 罹患。

3/15~3/20 上京アイアイハウスとアイアイホームを閉鎖。上京アイアイハウスはアイアイホームの仲間5名が通所。アイアイホーム仲間も全員PCR検査実施したが全員感染は確認されなかった。

アルバイト者1名 罹患。

アイアイホーム仲間全員のPCR検査を実施。検査結果がわかるまで事業は継続した上で、日中事業所に通所せず自宅やアイアイホームで過ごしていただいた。

2021年度 ヘルパーステーションアイアイ 事業報告

文責:藤田 真人

仲間の生活支援の課題が増大する中、法人内生活介護事業を利用している仲間やグループホームでの暮らしを支えていくために職員確保を継続して進めてきました。法人内でヘルパー資格保持者が支援体制に加わることで、安定した支援体制の拡充に努めました。昨年度より法人としてヘルパー資格(初任者研修・実務者研修)取得の助成制度を新たに作り、複数の職員が資格取得することができました。また、派遣先を法人内外に拡充し地域でくらす仲間の生活支援や余暇でのたのしみにつながるような支援を行うことができました。ヘルパー運用法の改革や派遣数増加により収入増も達成できました。

2021年度 相談支援センターアイアイ 事業報告

文責:藤田 真人

常勤1名体制で指定特定相談支援事業に取り組んできました。40名(昨年度37名)の仲間の利用計画作成や日常生活相談を行ってきました。コロナ禍が続くことにより仲間の日中・余暇支援の利用控えがあり、在宅で過ごすことが増えた仲間の支援や、新たな過ごし方を模索する計画作りも行ってきました。住み慣れた地域で一人暮らしを行う仲間への支援体制確保という新たな課題も出てきています。東部自立支援協議会主催の相談支援専門員スキルアップ研修には企画段階から参加し地域の支援基盤づくりも行ってきました。